



M10型重量物品棚

組立・取扱説明書

このたびは、TRUSCO・スチール棚をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。本製品は、棚板の増設・交換・補充が簡単にできます。また部品についても、ネジレや横ブレ等が生じない高精度を実現しています。塗装は、焼付塗装をほどこし、サビ・キズ等に強く、汚れも目立ちません。オフィス・工場倉庫・店舗で、末長くご使用いただけます。

M10型の棚板1段当りの耐荷重は、均等で1000kg、1台当りの最大荷重は5000kgです。

※「均等の耐荷重」とは、棚板の表面に均一に荷重をかけた場合に、耐えられる重さの合計量をいいます。

安全上のご注意 **必ずお守りください**

お使いになる人や、他の人への危害や財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただく内容を次の要領で説明しています。



警告

誤った使い方をすると「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を説明しています。

■耐荷重以上の荷物を置かない

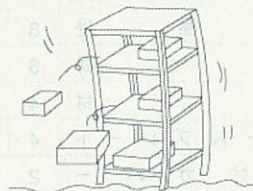
棚が傾いたり、棚板が曲がったりして危険です。同梱の「警告表示シール」を必ず貼付し、表示に従ってください。

■足をかけたり、よじのぼったりしない

転倒したり、棚板が外れたり、足を滑らせてけがをするおそれがあります。同梱の「警告シール」を必ず貼付し、表示に従ってください。

■不安定な場所に置かない

棚が倒れたり、荷物が落下して、けがをするおそれがあります。



均等荷重1000kg/段当り



棚板足掛厳禁



注意

誤った使い方をすると「傷害または財産への損害が発生する可能性が想定される」内容を説明しています。

■最上段棚板に荷物を置かない

棚が倒れたり、荷物が落下して、けがをするおそれがあります。

■棚が変形したままで使用しない

棚が倒れたり、荷物が落下して、けがをするおそれがあります。

■屋外や水のかかる場所に設置しない。

また、ぬれたものを置かない
棚が腐食し、倒壊するおそれがあります。

■組立はウラ面の手順に従う

手順を誤ると、組立中に部品が外れたりして、けがをするおそれがあります。

■支柱の切断など、改造をしない

棚が不安定になり危険です。また切断面のバリなどで、けがをするおそれがあります。

■荷物は静かに丁寧に載せる

乱暴に載せると棚板のたわみやはね上がり、荷物の落下で、けがをするおそれがあります。

■解体移設するときは、組立手順に逆行する

部品の取外し手順を誤ると、部品の落下・転倒のおそれがあります。

■危険物(薬品・壊れ物等)を置かない

破損してけがをしたり、健康を害するおそれがあります。

■棚板をウラ向けにして使用しない

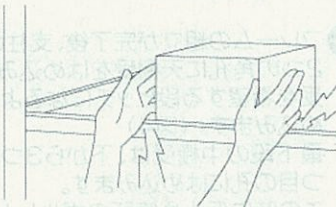
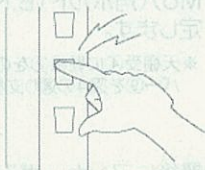
指などを折り返し部に引っ掛け、けがをするおそれがあります。

■棚板のつなぎ目など、隙間に指を入れない

切断面や取付穴のカドなどで、けがをするおそれがあります

■棚によりかからない

棚が傾いて荷物が落下したり、棚が倒れて、けがをするおそれがあります。



組み立てる前に

梱包内容がすべて揃っているか、ご確認ください。

※万一不足の部品があった場合は、すぐに購入先へお知らせください。

※「警告表示シール」を同梱しています。棚板前面に貼付してください。

※枕木を2本ご用意ください。組立が容易になり、棚や床への傷つきを軽減します。

※組み立て時は、必ず軍手などの保護具を着用してください。

均等荷重1000kg/段当り



棚板足掛厳禁

天地4段仕様



●天地4段(棚奥行620D)の場合

梱包内容 段数が増設した場合、棚板・中棚受けの数が増減します。

又、棚板枚数は、棚奥行により異なります。

	品名	基本型	連結型
①	支柱	4	2
②	棚板	16	16
③	ビーム	4	4
④	天棚受	2	2
⑤	中棚受	6	6
⑥	横材	6	3
⑦	斜材	4	2
⑧	ベースプレート	4	2
⑨	支柱カバー	2	1
	六角ボルト(M10×20)	56	36
	アンカーボルト(M10×50)	4	2
	六角ボルト(M6×12)	16	16
	ライナー	8	4

② 棚板

棚板は、奥行に応じて、所定の棚板フレーム枚数を組み合わせ、M6×12ボルト、ナットで干鳥に固定します。

奥行 棚板フレーム枚数	
620mm	4枚
760mm	5枚
900mm	6枚

⑥ 横材

M10×20ボルト、ナットにて支柱に固定します。

⑦ 斜材

M10×20ボルト、ナットにて支柱に固定します。



⑨ 支柱カバー

④ 天棚受

① 支柱

棚高さの調整は50mmごとにできます。増設時には支柱を共有することができます。

⑧ 中棚受

ワンタッチで棚高さの調整ができます。

⑧ ベースプレート

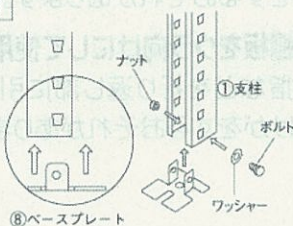
アンカーボルト(M10×50)付です。

組み立てかた

① ベースプレート⑧を支柱①の底部にはめ込みM10六角ボルト(B,N,W)で仮止めします。(2ヶ所)

※支柱の上部と底部を逆にしないように注意してください。(図1)
※支柱角孔の狭くなっている方が底部です。

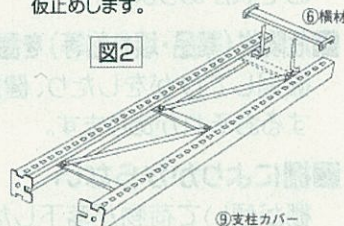
図1



② 次に支柱2本を床に置き、横材⑥を3本、所定の支柱の丸孔に取付けM10六角ボルト(B,N,W)で仮止めします。(図2)

※H1200、H1500は横材2本です。
※この時、斜材⑦を横材⑥の孔位置に取付けM10六角ボルト(B,N,W)で仮止めします。

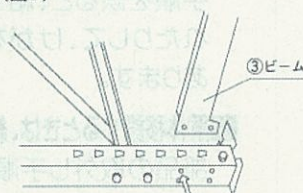
図2



③ そのフレームを寝かしたまま、ビーム③4本を支柱の孔位置に取付けます。

※ビームの向きを逆にしないように注意してください。(図3)

図3

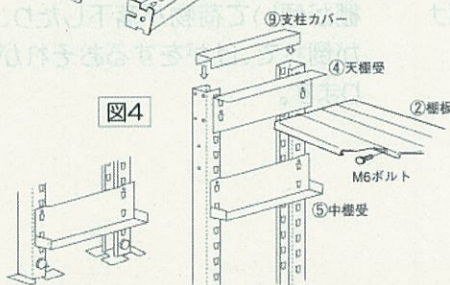


そのままフレームを起こし、反対側のビームにもフレームを取付けます。

④ フレームの組立が完了後、支柱の上部2つの角孔に天棚受をはめ込み、中棚受を希望する段ピッチになるようにはめ込みます。(図4)

最下段の中棚受は、下から3つ目と4つ目の孔にはめ込みます。
この時に仮止め箇所のボルトナットを全て締め固定します。

図4



⑤ 棚板②を棚受の上に並べ、棚板同士をM6六角ボルト(B,N)で左右干鳥に固定します。

※天棚受④に棚板②をのせた場合、必ず支柱カバー⑨を図4の通り支柱にかぶせてください。

⑥ 最後にアンカーボルトを打込みます。